



JA福島さくらの概要

JA福島さくらのめざすもの

～ 緑の大地、ふるさとの農業とくらしの再生 ～

東日本大震災と原発事故により、ふたば地域を中心に農業生産の環境は大きく変わってしまいました。JA福島さくらの願いは、祖先から受け継いだ緑の大地を守り、地域農業の生産基盤を再生して、豊かで健康なくらしを再び取り戻すこと。そうしたふるさとの未来に向かって復興への取組みを進めます。

～ 次代へつなぐ農業づくり ～

「^{うみ}湖から^{うみ}洋へ、地域の特性を活かした協同の力の発揮」これが私たちJA福島さくらのテーマです。郡山、たむら、いわき、ふたば、各地区内の農畜産物の生産・販売に係る活動をとおして、組合員の皆様のさらなる農業所得向上をめざすと共に、次代へとつながる地域農業の発展に努めていきます。

～ くらしの活動を通じた「安全・安心」の確保 ～

くらしの中で感じるニーズに対して、組合員や地域住民の皆様が行っている取組みを、JA福島さくらの各事業拠点を中心にサポートする活動を展開しています。そして、各地域組織のネットワーク化を進め、協同活動の輪を広げながら、くらしの「安全・安心」が確保される地域社会の形成をめざします。

～ より身近に、より信頼されるJAづくり ～

JA福島さくらは、組合員や利用者の皆様に信頼され、そのご期待にお応えできる事業運営を進めます。そのためにも、東日本大震災と原発事故による環境の変化に対応し、地域復興を担う強固な経営基盤の確立に努めます。そして、協同の力を結集し、地域に根ざしたJAとして発展していくことをめざします。



経営理念

農業の振興と地域社会への貢献 ～「緑の輝き」「地域の輝き」～

『緑の輝き』は、「地域の元気でたくましい農業」、「美しくかけがえのない自然」、「農家組合員の活力ある営農の姿」を表し、『地域の輝き』は、「地域社会の発展」、「健康で心豊かなくらし」、「次代の子供たちの姿」を表します。すなわち、2つの輝きは「農業振興」と「地域貢献」であることを意味します。



経営方針

より身近に、より信頼される JAづくりの実践

わたしたちは、地域の農業を振興し、ふるさとのかけがえのない自然を守り、健康で心豊かなくらしづくりを応援します。そして、愛され信頼されるJAをめざして、誠実に、着実に歩みます。

『身近に』は、JAが「地域にかけがえのない」、「愛され必要とされる」、「地域社会に根ざした」組織をめざすこと、『信頼』は、JAが「公正」、「健全な経営」「組合員の負託に応える」「誠実」な組織であることを表します。

目次

JA福島さくらについて……2

事業紹介……7

エリア紹介

●郡山地区……24

●たむら地区……25

●いわき地区……26

●ふたば地区……27

組織機構図……28

沿革……31

シンボルマークについて……31

組織概要

(平成28年2月末日現在)

名 称 : 福島さくら農業協同組合
設 立 : 平成28年3月1日
所在地 : 福島県郡山市朝日二丁目14番7号
事務所の所在地: 郡山市、田村市、田村郡三春町・小野町、いわき市、双葉郡広野町・楡葉町・
富岡町・川内村・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村



■ 組合員数 単位:人

総 数	74,281
(正 組 合 員)	39,731
(准 組 合 員)	34,550

■ 役員数 単位:人

総 数	68
(理 事)	62
(監 事)	6

■ 職員数 単位:人

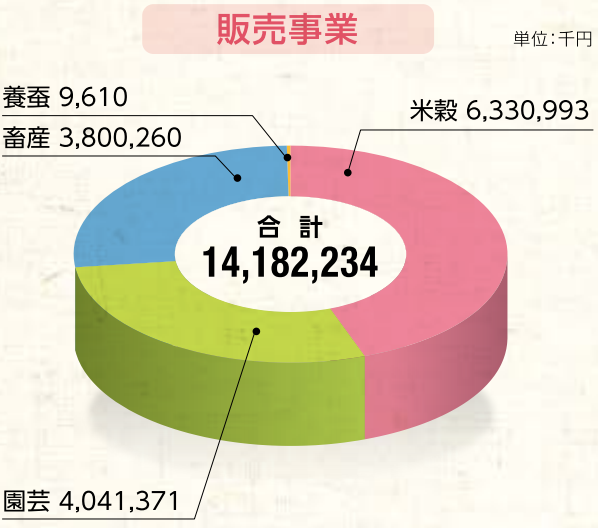
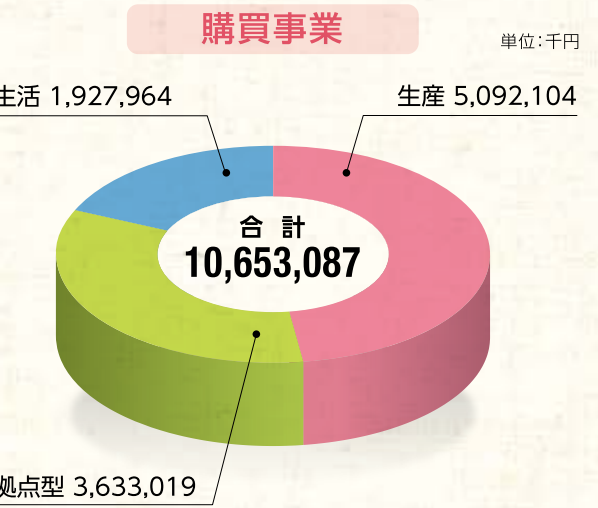
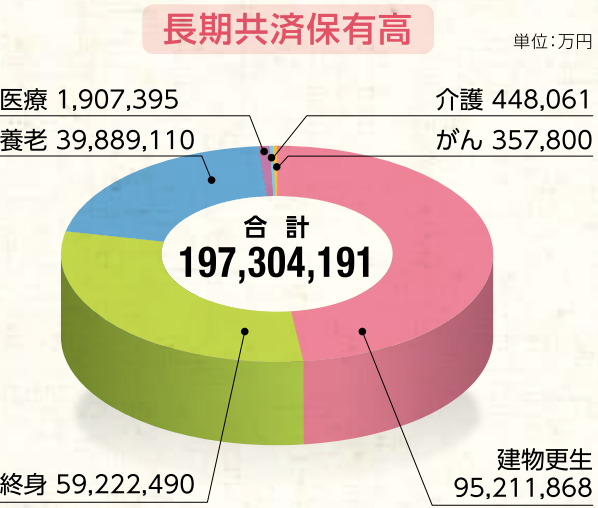
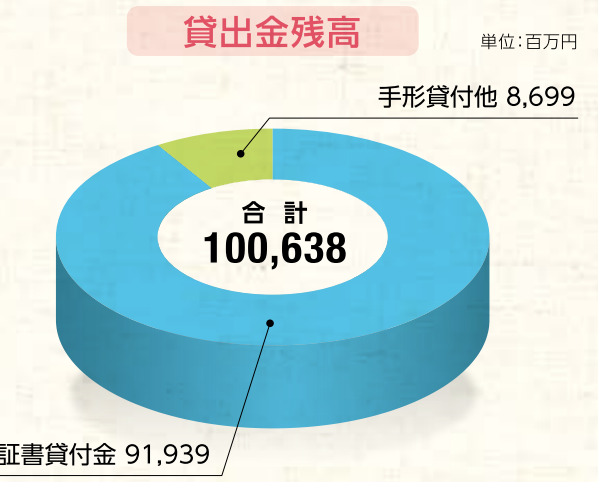
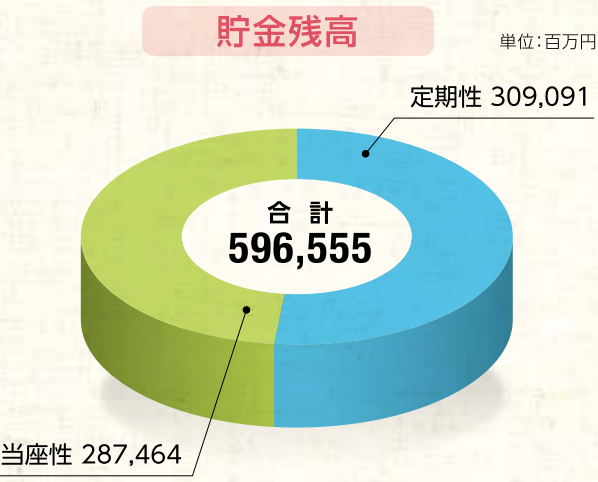
総 数	1,683
-----	-------

■ 子会社の状況

名 称	事業内容	資本金総額	役 員 数	社 員 数
(株) JA郡山市農業受委託	農産物の生産	1,000万円	9名	6名
(株) JA郡山市協同サービス	総合葬祭事業	1,000万円	9名	30名
(株) JA郡山市食材サービス	食材の宅配事業	1,000万円	9名	12名
(株) JA郡山市燃料サービス	ガソリンスタンドの経営等	1,000万円	10名	28名
(株) JAいわき市協同サービス	葬祭事業等	10,000万円	12名	31名
(株) JAいわき市燃料サービス	ガソリンスタンドの経営等	10,000万円	11名	37名
(株) JAアグリサポートたむら	穀類、野菜類、果樹等の生産及び販売	2,000万円	5名	1名
(株) JA新聞センターたむら	日刊新聞及び書籍・雑誌の販売、 広告等の新聞折込	5,000万円	7名	4名

事業実績

(平成28年2月末日現在)

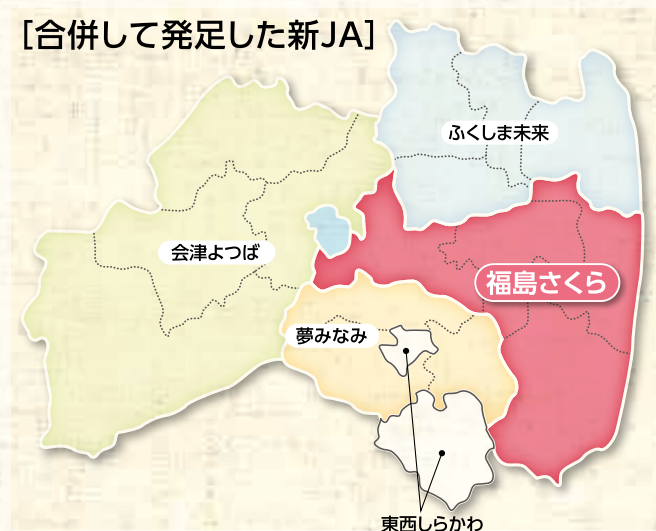


旅行事業
646,626 (千円)

福祉事業
818,690 (千円)

管内概要

[合併して発足した新JA]



主要農産物

●あさか舞

安積平野の肥沃な大地と、安積疏水による豊富な水が育む主要銘柄「コシヒカリ」「ひとめぼれ」の1等米は、郡山ブランド認証産品「あさか舞」として親しまれています。



●ピーマン

田村市・田村郡をはじめとする阿武隈高原ではピーマンの栽培が盛ん。採れたて新鮮なピーマンは青臭さが少なく、甘みが強くて柔らかいと高い評価を得ています。



●トマト

管内各地で盛んに作られるトマトは、陽の光をたっぷりと浴びた自慢の逸品です。いわき地区では全国でも数少ない温室での水耕栽培も行われています。



●きゅうり

郡山地区を中心に栽培されているきゅうり。みずみずしく爽やかな味わいが特徴で、管内の夏の味覚として生のままでも、漬物にしてもおいしくいただけます。



●いんげん

たむら地区で生産が盛ないんげん。甘みが強いその実は、食卓を飾る彩り野菜としてだけでなく、胡麻などで和えれば立派な一品料理に早変わりします。



●ねぎ

明治の初めから栽培される、長い歴史を持ついわきのねぎ。広大で肥沃な土壌で育つねぎは、強い甘みと芳ばしい香りを持ち、様々な料理で活躍します。



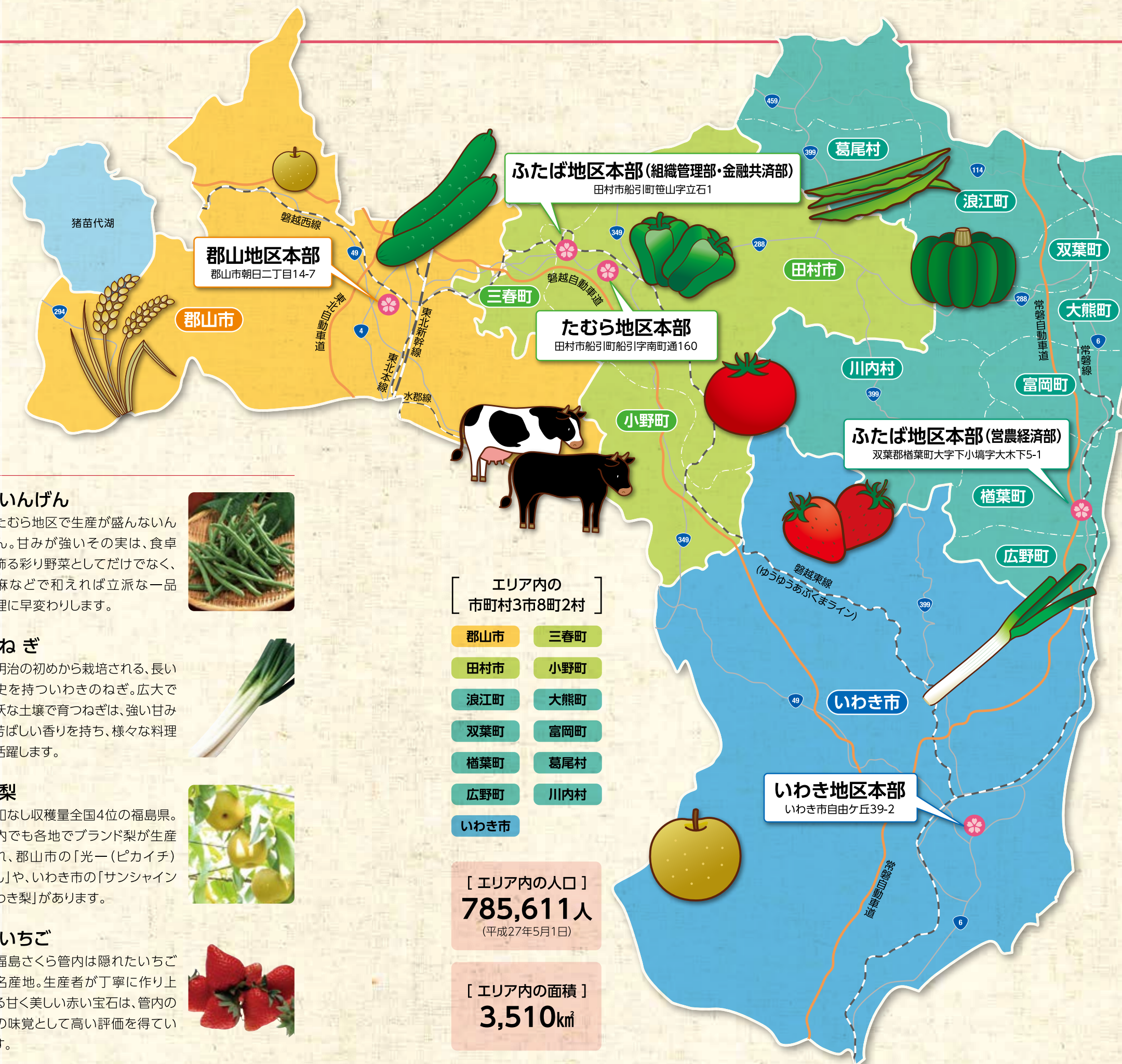
●梨

和なし収穫量全国4位の福島県。管内でも各地でブランド梨が生産され、郡山市の「光一（ピカイチ）くん」や、いわき市の「サンシャインいわき梨」があります。



●いちご

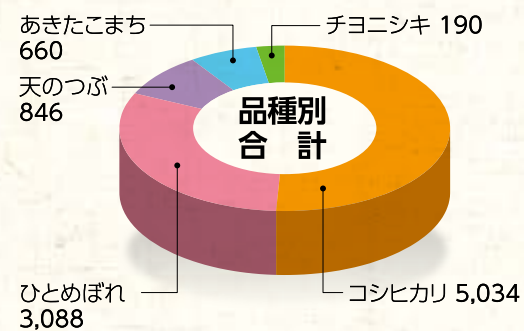
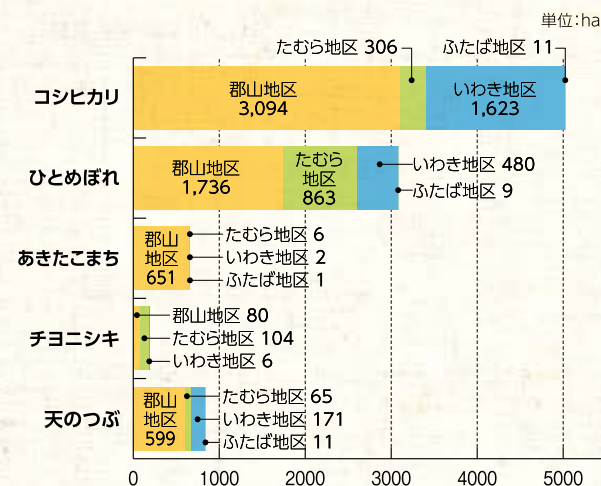
福島さくら管内は隠れたいちごの名産地。生産者が丁寧に作り上げる甘く美しい赤い宝石は、管内の冬の味覚として高い評価を得ています。



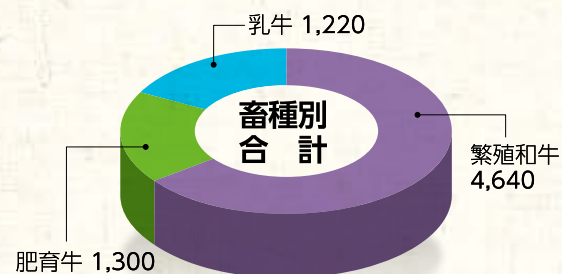
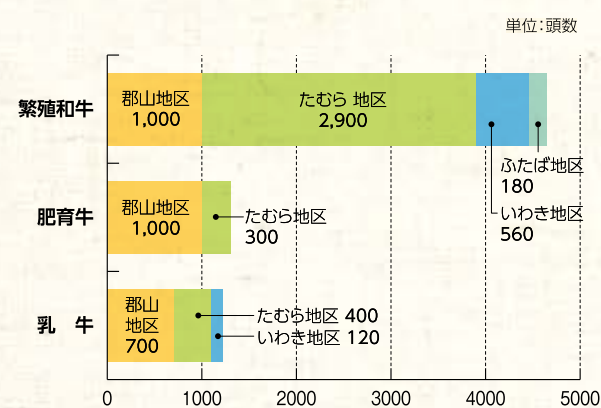
農業基盤

(平成28年2月末日現在)

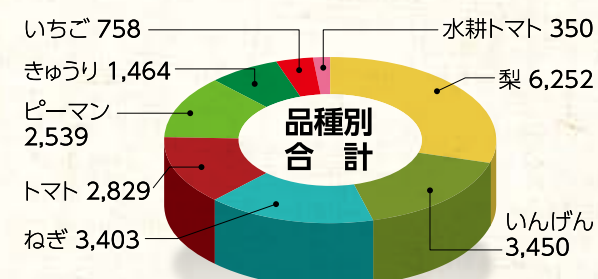
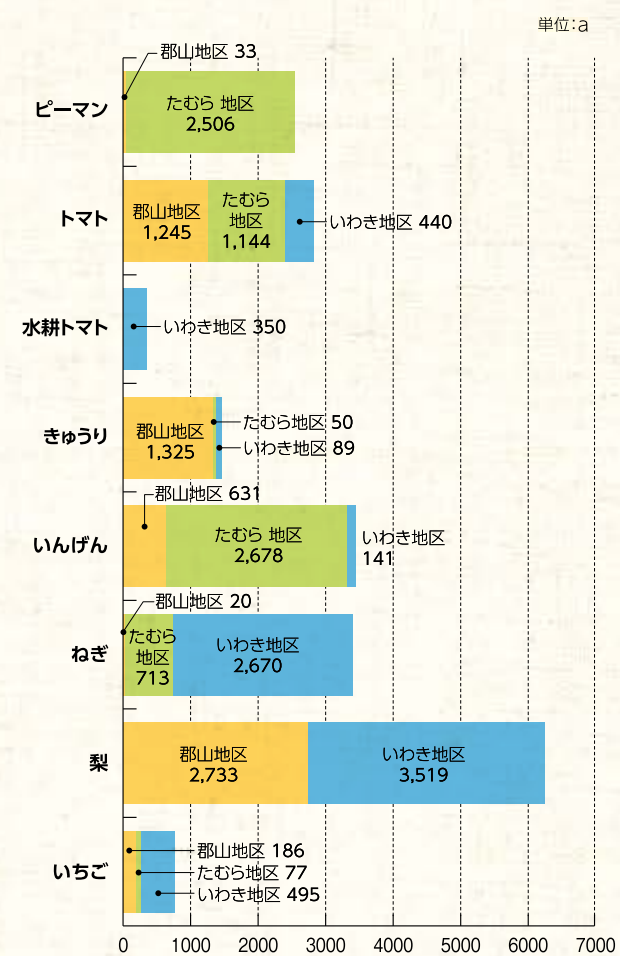
■水稲主要品種の栽培面積(地区別)



■畜種ごとの飼養頭数(地区別)



■園芸主要品目の栽培面積(地区別)



JA FUKUSHIMA SAKURA

事業のご紹介

営農指導事業

地域に根ざした営農支援や地域特性を活かした販売支援を行いながら、組合員の皆様に信頼され、ご満足いただけるような営農指導に取り組んでいます。

1 営農指導・支援

定期的な栽培セミナーや技術指導会の開催、営農に関する情報提供に取り組んでいます。

また、組合員の皆様が気軽に相談できる事業拠点の体制づくりを進めて、営農相談機能のさらなる充実を図るとともに、JAの総合力を活かした農業資金面のサポートや、新規就農者・定年帰農者・女性農業者の支援等にも力を入れています。



2 担い手支援

将来に向けた地域農業戦略を策定し、集落営農の組織化・法人化や農地対策の強化などを進めています。

その中で「担い手」をしっかりと支援していけるよう、経営指導を生産者・集落営農組織・農業生産法人別にきめ細かく行い、農業税務をサポートする体制づくりや、JAの子会社（農業生産法人）と連携した農作業受委託支援、担い手支援に携わる人材の育成など幅広く取り組んでいます。



3 農家応援団事業

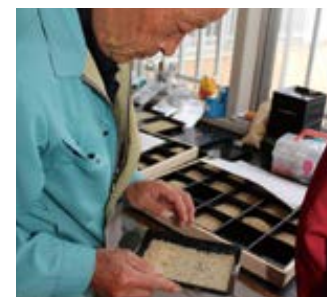
農家応援団事業は、組合員の皆様の農業所得向上、農業生産の拡大および地域活性化に向けた新しい事業です。具体的には、◎集落営農組織・農業生産法人・将来の担い手に対する支援 ◎米穀・園芸特産・畜産農家に対する支援 ◎鳥獣害防止対策への支援を行っています。



新規就農者への助成金交付

4 農産物検査

農産物の指導的検査員を育成し、検査機関としての機能充実を図っています。また、検査技術の向上に向けて、定期的に技能統一を実施し、鑑定会を開催しています。



米検査

5 食の安全・安心対策

生産者・生産組織と連携した定期的な土壌診断・残留農薬検査を実施しています。また、復興対策に関連した各種自主検査や安全・安心対策に取り組んでいます。さらに、環境にやさしく、持続性の高い農業生産の取組みとして、安全・安心な食を提供するエコファーマーや特別栽培を推進しています。



水田の土壌調査

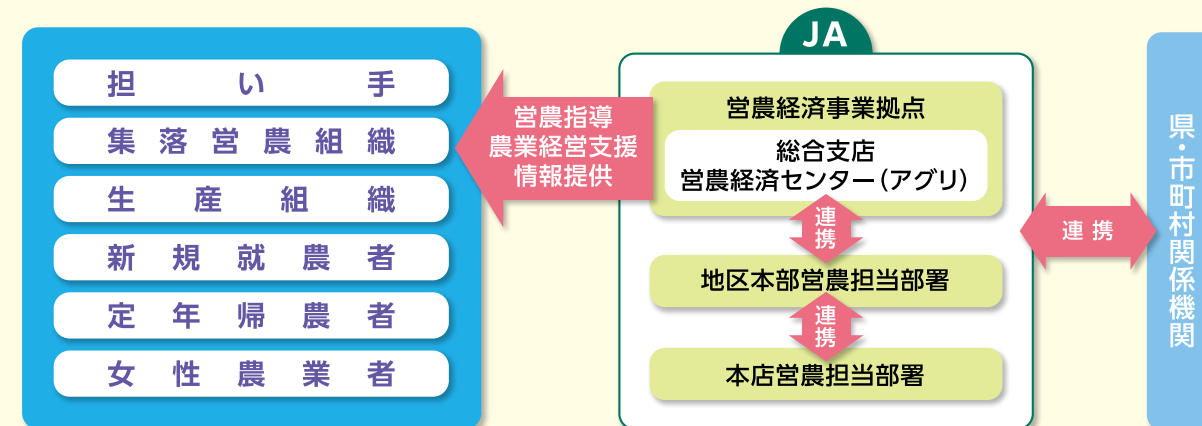
6 青年連盟活動

情報交流会や研修会、各種スポーツ大会、イベント等を開催し、盟友の親睦と新規加入を図っています。また、食農教育を通じて次世代・消費者の皆様と交流したり、地域活動やJA事業へ積極的に参加するなどしています。こうした活動のもと、地域との連携と盟友の交流をさらに進めていきます。



販売促進活動

JA福島さくらの営農指導体制（イメージ）



くらしの活動

各地区の活動を基本に、管内全体での取組みも積極的に実施して地域間交流を深めています。また高齢者支援や女性部活動などにも取組んでいます。

1 食農教育

食の大切さを伝え、食料と農業、自然環境への理解を深めていただくため、子どもや地域住民・消費者の皆様を対象に、農業体験学習や料理教室などを開催しています。



小学生に食農についての教材を配布



そば打ち体験



農業体験ツアー

2 女性部活動

女性が担う役割は、家庭はもちろん、農業や地域社会においても欠かせないものです。その立場から「食と農」の大切さを広く伝え、健康管理、教育文化活動など幅広い交流活動を展開しながら、地域社会から期待される組織活動に取り組んでいます。



健康スポーツ倶楽部



ごはんの日



ふれあい広場「だんだん」支援



女性部バレーボール大会



女性大学正月料理教室



だるま制作

3 JA健康寿命100歳プロジェクト

高齢者の介護予防と健康づくりを目標に、ウォーキング・体操・ダンスなどの運動や趣味の講座、食事指導、健康診断の奨励等を実施しています。また行政などとも連携して、地域に根ざした「ふれあい活動」を進めています。



4 教育文化活動

組合員と地域利用者の皆様、協力・生産組織を対象に、教育文化活動の教材として「日本農業新聞」および「家の光」の購読普及に取り組んでいます。



家の光・農業新聞

5 地域貢献活動

地域のイベントに参加・協力し、環境美化活動や防災・防犯活動などに取組んでいます。また、地域コミュニティの活性化を図り、高齢者や女性・子どもが積極的に参加できる「場」の提供、さらに、住みよい生活環境づくり、環境保全活動、子育て支援活動など幅広く取組んでいます。



食育ソムリエの育成



農業体験



親子でわくわく農業体験



健康寿命100歳弁当コンテスト(平成26年全国入賞作品)



水田生き物調査



仮設住宅世帯への声かけ運動(カレンダー配布)

福祉事業

地域に暮らす全ての高齢者が、安心して、自分らしく、生きがいをもって生活できるための支援と介護サービスの提供に取り組んでいます。

1 介護支援サービス

介護保険制度に対応した質の高いサービスを提供し、組合員と地域住民の皆様から信頼され、選ばれる事業所づくりに取り組んでいます。さらに地域包括支援センターと連携したネットワーク化(JAの地域包括ケアシステム)も進めています。



居宅介護サービス



デイサービスでのイベント

2 安全・安心な介護用具・用品の提供

利用者の自立とご家族の介護負担軽減を支援するため、福祉用具専門相談員が、利用者の身体状況や住宅環境などを考慮し、最適な福祉用具を選定して提供しています。



福祉用具展示会

3 新たな事業の展開

たむら地区では平成28年度に小規模多機能型居宅介護事業所・グループホーム「は～とらいふ三春」および「JA歯科診療所きらら歯科医院」を開業。郡山地区においても、平成29年度から小規模多機能型居宅介護施設と認知症対応型共同生活介護施設(グループホーム)の事業を開始します。

また、いわき地区では平成27年度に事業を開始した、「JAデイサービスみなみ」と「JA歯科診療所のぞみ歯科医院」の機能を充実させ、地域に根ざした福祉事業を進めると共に、新たに小規模多機能型居宅介護施設の開設を検討しています。



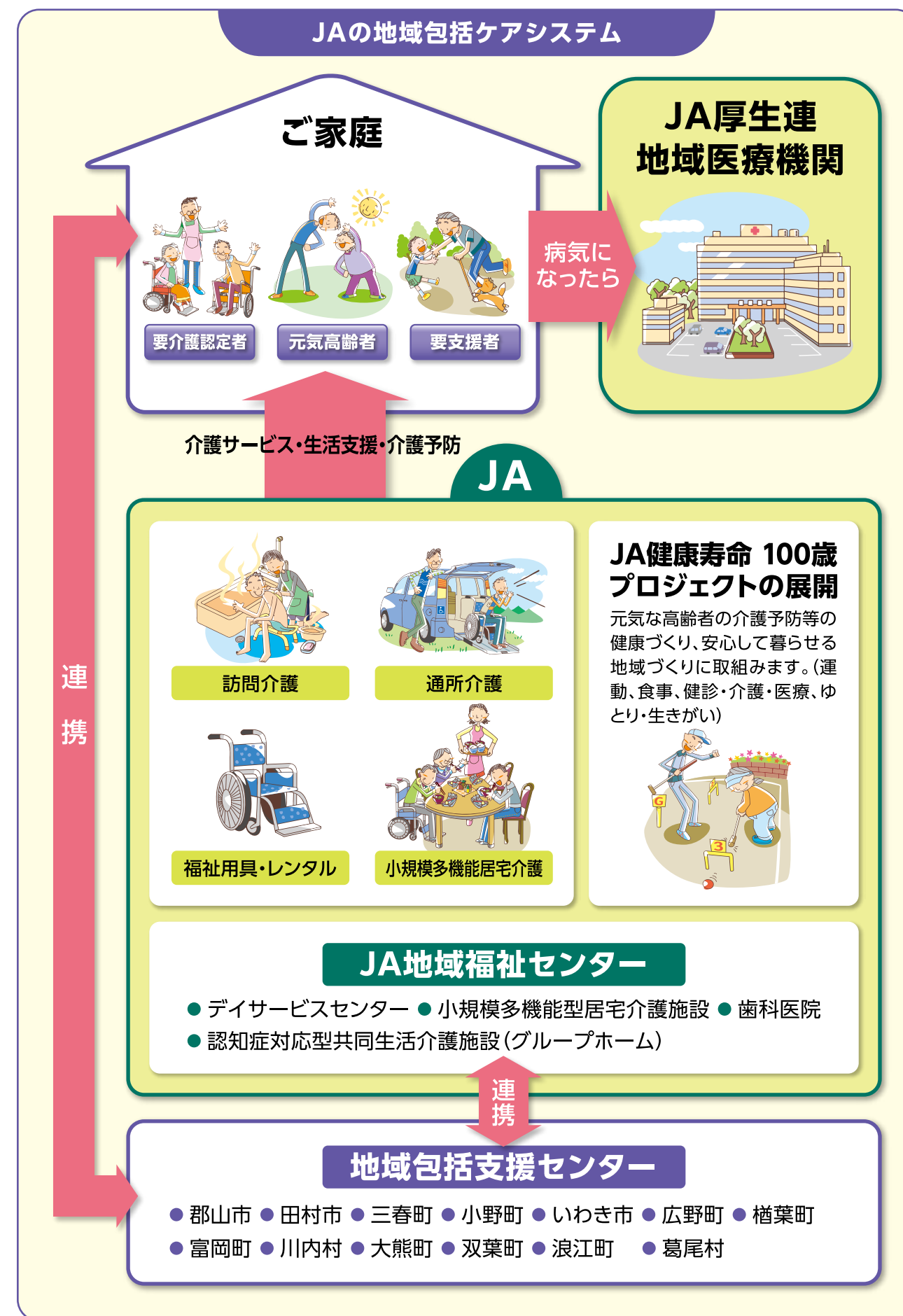
小規模多機能型居宅介護施設のクリスマス会



グループホームは～とらいふ三春



学生の福祉体験受入れ



復興対策

原発事故の影響で失われた消費者の皆様の信頼を取り戻し、再び全国に誇れる産地となるための環境づくりと共に、一刻も早い「ふるさとの農業再生」に取り組んでいます。

1 農地の再生、環境整備

農業生産が再開できる支援体制づくりを、行政等関係機関と連携しながら進めています。また、将来のあるべき姿に向けた農業関連施設の整備に努めています。



農地除染

2 安全・安心対策

福島県などが行う「ふくしまの恵み」安全・安心推進事業と連携し、米の全袋検査を実施しています。また、園芸品目の全戸・全品目出荷前検査、農産物直売所全店舗での定期的な自主検査を実施しています。



米の放射性物質検査

3 風評被害対策

放射性物質の検査(モニタリング等)結果や産地情報をしっかりと開示する広報活動を実践しています。また、農産物直売所を中心に、地産地消を推進する地元農畜産物や加工品を積極的に提供しています。県内外の消費地に向けては、各市町村長らによる宣伝活動(トップセールス)や、各種イベント・販促活動を実施しています。



店舗内で農産物をPR



風評被害払拭CM撮影

4 農業生産再開への支援

各町村の帰還計画に基づく営農をサポートしながら、安全・安心な農産物生産に向けた試験栽培、非主食用米の生産や切花等への作物転換、被害地域の農業基盤の整備と施設の集約移転などを進めています。



浪江町での米実証栽培

5 避難されている組合員の皆様の総合支援

JAの総合力とネットワークを活かして、総合相談機能を強化し、避難先での営農再開に向けた支援やくらしの活動を行っています。また関係機関と連携し、農用地利用集積円滑化事業・農地中間管理機構での農用地の賃借を進めています。



ドライビング講習会で雪道運転のシミュレーション

6 原発事故に係る損害賠償請求支援

損害賠償請求事務の受託と賠償金の早期満額支払の手続き等に対して迅速に対応しています。



原発事故損害賠償請求

販売事業

常に食の安全・安心を担う責任ある産地であり続けるよう、流通の自由化や多様化するニーズにも対応し、JAのブランド力を活かして、地域の特色ある農畜産物の販売に取り組んでいます。

1 米穀

「地域ブランド米」の確立と福島県オリジナル品種「天のつづ」の普及に取り組んでいます。販売方法については、消費者の皆様のニーズに対応し、精米の取扱い拡充等に力を入れています。



カントリーエレベーター



郡山地区のブランド米「あさか舞」

2 園芸特産

ピーマン、トマト、いんげん、梨などの主要品目の地域ブランド化に力を入れ、その販売体制の一元化を進めています。また今後に向けて、標高差・気温差を利用した「産地リレー栽培」で、より充実した出荷体制が実現するよう取組みを強化していきます。



3 畜産

肉牛については、飼養技術と品質のさらなる向上をめざすと共に、ネットワークを活かした販売力を強化して、「福島牛ブランド」の確立に力を入れています。また、乳牛については、乳質改善および牛群改良を進め、生産基盤の安定化に取り組んでいます。



平成28年の初セリ

4 農産物直売所

直売所への出荷者を幅広く確保し、小規模農家や女性従事者には生産のサポートも行いながら品揃えの充実を図っています。また、生産者と地域消費者の皆様をつなぐ店舗イベントを実施して、来店者の拡大と地産地消の促進に努めています。そのほか、地域の農産物・加工品を全店舗に出荷できる体制づくりや、JAネットワークを活かした県内外の特産品販売なども行い、地域消費者の皆様が安心して利用され、かつ満足していただける店舗づくりに取り組んでいます。



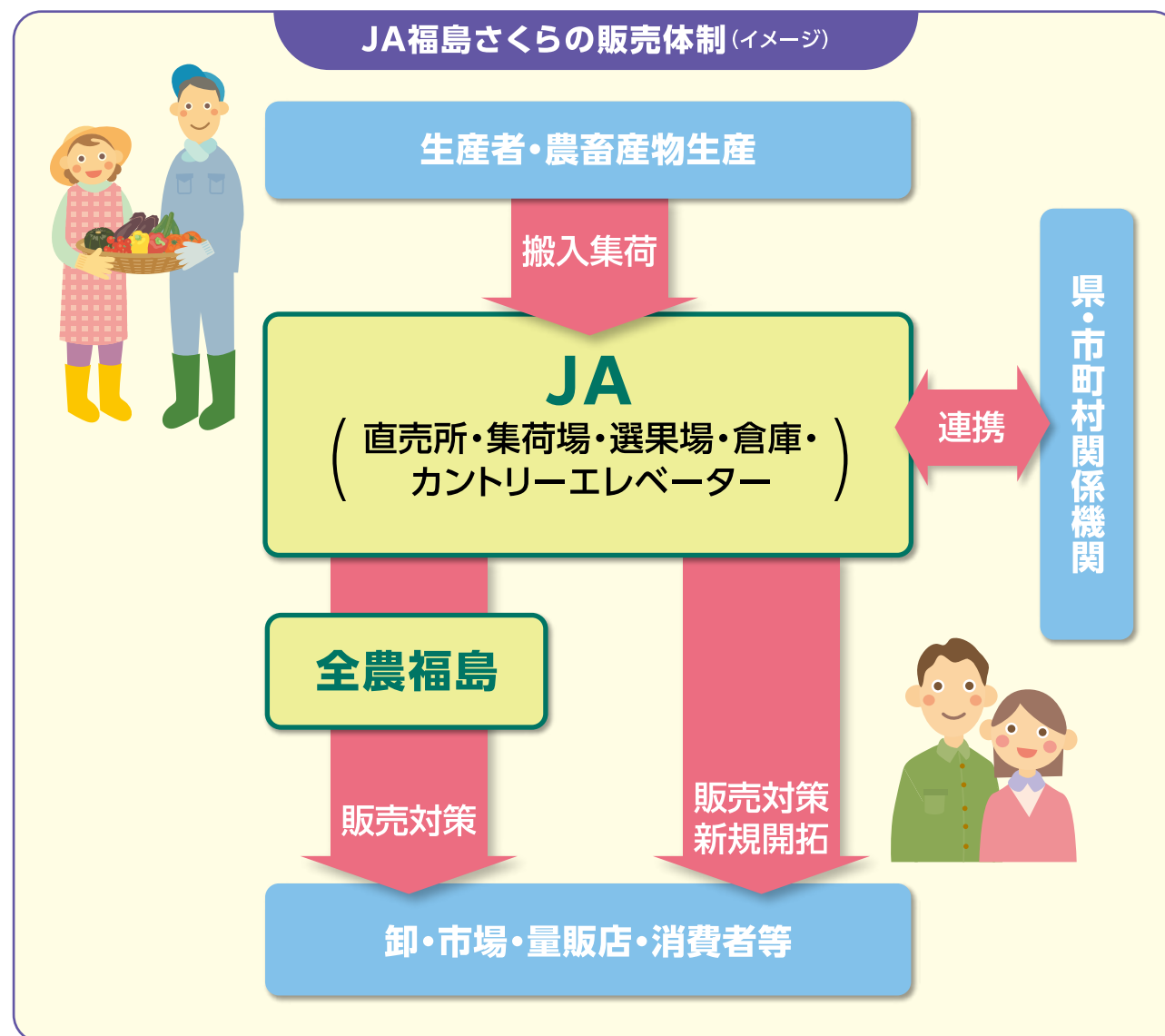
旬の庭 久留米店(郡山市)



ふあせるたむら(田村市)



ファーマーズマーケットいがっぺ(いわき市)



購買事業

生産資材を提供する「生産購買事業」、くらしの商品を提供する「生活購買事業」、農業機械、燃料、葬祭、食材などのサービスを提供する「拠点型購買事業」の3つを中心に事業展開しています。

1 良質で安価な生産資材の提供

肥料・農薬等の取扱い品目や規格の集約を進めて価格抑制を図り、低コストな生産資材を提供しています。農業資材センターや営農経済センターなどの生産資材店舗では、多様なニーズに対応した生産資材を提供し、各種イベントなどを通してサービス向上に努めています。



スーパーバイザー



農業資材センター

2 くらしに役立つ安全・安心な商品の提供

地域のニーズに合わせた魅力ある商品を提供できるよう、購買店舗の充実化や、JAオリジナル商品の開発・販売を進めています。また、くらしに関連した各種展示会の開催、JAウェディングの取扱い拡大にも取り組んでいます。さらに、環境・省エネに配慮した太陽光発電、LED商品の普及を進めています。



日和田総合支店展示会

3 農業機械

全農の整備工場やメーカーと連携し、組合員の皆様から信頼されるサービスの提供に努めています。具体的には、地域や経営規模の実情に合った農業機械の提供、中古品やレンタル機器を活用した営農コストの低減、点検・修理等への適切な対応など。また、農業機械を安全に使用するための講習会開催等を通して事故防止対策にも取り組んでいます。



4 くらしのエネルギーのベストパートナーを目指して

地域の皆様の身近なところで燃料とエネルギーを供給しています。また、灯油・軽油・重油の定期配送、油外商品の取扱い、環境に配慮した再生エネルギー等のサービスも展開しています。



小野給油所セルフ化オープン



ガス器具フェア

5 安心のJA葬祭

JA葬祭ならではの会員特典や親切丁寧なサービスを提供し、利用される方の満足度向上に努めています。また、JA斎場と提携斎場の地域間の相互利用を進め、組合員や利用者の皆様の利便性の向上に取り組んでいます。



葬祭センターで人形供養祭



平成28年オープン ラポール・錦

6 安全・安心な食材の宅配

多様化する食生活に対応したメニューを充実させ、JAのネットワークを活かして全国の旬の食材を提供しています。また、買い物不便地域に居住する高齢者世帯への宅配や、小規模介護福祉施設向けの「介護用食材」の提供など、地域高齢者の支援にも取り組んでいます。



食材センターでふれあい食材抽選会

加工・利用事業

共同施設の有効利用によって組合員の皆様の営農コストが低減できるよう、現在ある共同施設の機能を充実させ、より効率的な施設運営に努めています。また、農畜産物の販売戦略の一環として、農産物加工商品の研究開発にも取り組んでいます。

1 共同施設の相互利用

各地区の水稲・野菜育苗センターを相互に有効利用しながら、品種の統一や新たな品種導入に取組み、地域の枠を超えたブランド化を進めています。

各地区の共同施設

郡山地区	水稲育苗センター(西田・日和田)、 カントリーエレベーター、 精米センター、水稲種子センター
たむら地区	水稲育苗センター(小野)、 水稲種子センター(小野)、 たばこ育苗棟(小野・大越)
いわき地区	水稲育苗センター(高久・片寄・南部・渡辺)、 カントリーエレベーター、大野種子センター



育苗センター

2 農産物加工商品の研究開発

「加工」による付加価値をつけた商品を開発・研究するため、その拠点づくりを進めると共に、地域農業の担い手、行政、地元企業とも連携して地域特産品の開発に取組み、地域活性化につながる6次産業化を推進しています。



たむら産りんごのアップルシードル

信用事業

組合員・利用者の皆様の「農業」と「生活(くらし)」を支え続ける金融機関として、地域農業の振興と地域社会の発展に貢献し、身近で便利な地域金融機関として、組合員や地域の皆様から「選ばれ信頼されるJAバンク」の実現を目指してまいります。



1 農業金融サービス

資金の相談・対応を含め、農業従事者の皆様の多様化する金融ニーズにしっかりと応ええる態勢づくりに努めています。例えば担い手経営者の方に対しては、定期的な訪問活動を実施し、資金の相談・提供などを行っています。また、被災された組合員の皆様に対しては、営農や生活の再建についてきめ細かくご相談に応じ、行政等とも連携しながら農業基盤の復旧・復興をお手伝いしています。



資金相談

2 生活金融サービス

利用者のライフイベントや各年齢層に応じたニーズを踏まえ、良質できめ細かな生活金融サービスを提供しています。例えば、ATMの機能拡充や障害時の迅速な対応、法人向けネットバンク利用促進、また金融商品(国債・投資信託)の販売も行っています。



金融窓口

3 年金相談会・休日ローン相談会

年金相談会・休日ローン相談会を開催し、的確・迅速な対応によるサービス向上に努めています。特に相続・遺言・資産運用等については専門性が高いため、きめ細かく対応できるよう相談体制の強化に取り組んでいます。

共済事業

JA共済の「ひと・いえ・くるまの総合保障」のメリットを活かした3Q訪問活動やはじまる活動をとおして、相談・提案型の普及活動を積極的に展開。組合員・利用者の皆様の生涯にわたる生活保障の確立と、満足度の向上に向けた取り組みを実践しています。



1 ひと・いえ・くるまの総合保障

一人ひとりのライフプランやきめ細かいニーズに即したJA共済の「ひと」保障、多発する自然災害・火災等に備えた建物更生共済による「いえ」保障、保障・サービス・掛金面で総合的に優位な「くるま」保障、それぞれの取り組みを強化し、組合員・利用者の皆様の多様化・高度化するニーズに対応しています。

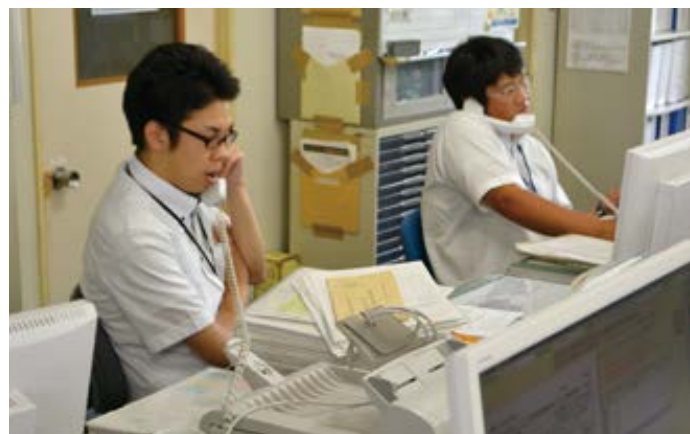


2 3Q訪問活動

3Q訪問活動とは、「ありがとう(サンキュウ)の気持ち」を込めて全てのご契約様を訪問し、ご家族の現状等さまざまな「Question(質問)」を行う取り組みです。タブレット端末機を活用して直接対話をしながら、よりわかりやすいライフプラン設計や保障プランの相談・提案を行っています。

3 事故処理対応

「事故相談センター」を3か所に設置し、迅速な事故処理対応にあたっています。事故受付から初期対応、経過報告等にかかる検証まで、一連の業務の質を高め、利用者の皆様の満足度向上に努めています。



事故相談センター

旅行事業

JAの各種事業やくらしの活動に連動した旅行事業「ふれあいツーリズム※」の実践を通じて、組合員・地域住民の皆様の生活に、豊かさと夢を提供し、JAと地域との絆づくりに取り組んでいます。

※ふれあいツーリズム：「集い」「ふれあい」「行き交う」活動をコーディネートするJAの取り組み。旅や催しの中で、相互理解を深める「交流・つながり」の演出を加えることで、人々が共通の体験を通じてお互いの心を通わせ合うことを目指しています。



旅行パンフレット



ベトナム旅行

倉庫事業

品質事故を未然に防止するため、倉庫設備の点検・清掃、施設の維持管理を徹底し、適正な保管管理による品質の確保に努めています。

郡山地区

福島県の中央部に位置し、東北地方第2位の経済規模を擁する商都、郡山。農業分野も盛んで、安積平野と呼ばれる海拔約240mの平坦地には、明治時代に開拓された田園地帯が都市部を囲むように広がっており、県内屈指の米の産地としてブランド米「あさか舞」をはじめとする美味しいお米を生産しています。



JA福島さくら本店・郡山地区本部
〒963-8502 郡山市朝日二丁目14-7
TEL.024-922-3733(本店)
TEL.024-921-0507(郡山地区本部)



◆支 店

- ① 田村総合支店
- ② 二瀬支店
- ③ 御代田支店
- ④ 中田総合支店
- ⑤ 西田総合支店
- ⑥ 富久山総合支店
- ⑦ 安積総合支店
- ⑧ 郡山総合支店
- ⑨ 富田支店
- ⑩ 芳賀支店
- ⑪ 大槻総合支店
- ⑫ 日和田総合支店
- ⑬ 逢瀬片平総合支店
- ⑭ 湖南東総合支店
- ⑮ 湖南西支店
- ⑯ 三穂田総合支店
- ⑰ 郡山喜久田総合支店
- ⑱ 熱海総合支店

◆施 設

- ⑲ 旬の庭久留米店
- ⑳ 旬の庭大槻店
- ㉑ 郡山精米センター
- 工場 (21-A)
- 事務所 (21-B)
- ㉒ 喜久田農業資材センター
- ㉓ 大槻農業資材センター
- ㉔ 郡山福祉センター
- ㉕ 日和田デイサービスセンター

- ㉖ ㈱JA郡山市農業受委託
- ㉗ ㈱JA郡山市協同サービス
- ㉘ JA郡山東斎場
- ㉙ JA八山田斎場
- ㉚ JA大槻斎場
- ㉛ ㈱JA郡山市食材サービス
- ㉜ ㈱JA郡山市燃料サービス
- ㉝ 田村給油所
- ㉞ 西田給油所

- ㉟ 大槻給油所
- ㊱ 湖南給油所
- ㊲ 喜久田給油所
- ㊳ 郡山ガスセンター

たむら地区

JA福島さくら管内の中心に位置するたむら地区は、田村市・三春町・小野町の1市2町からなる中山間地域です。阿武隈高原のなだらかな斜面に作られた圃場では、夏秋野菜を中心に様々な青果物が作られています。また、田村市のあぶくま洞や三春町の滝桜など、様々な観光資源を擁することでも知られます。



たむら地区本部
〒963-4396 田村市船引町船引字南町通160
TEL.0247-82-1212



いわき地区

福島県内で最大の面積を持ついわき市は、首都圏から近い地の利を活かした工業、太平洋の恵みを受ける漁業、リゾート施設や温泉、水族館を擁する観光と、様々な産業が発展しています。農業においてはトマトや梨など、露地栽培で広大な面積と長い日照時間を活かした農産物が広く栽培されています。



いわき地区本部
〒970-8033 いわき市自由ヶ丘39-2
TEL.0246-28-9100

◆支 店

- ① 神谷支店
- ② 飯野支店
- ③ 高久支店
- ④ 夏井支店
- ⑤ 草野支店
- ⑥ 平窪支店
- ⑦ 内郷支店
- ⑧ 好間支店
- ⑨ 小川支店
- ⑩ 三和支店
- ⑪ 大野支店
- ⑫ 川前支店
- ⑬ 久之浜支店
- ⑭ 大浦支店
- ⑮ いわき菊田支店
- ⑯ 勿来支店
- ⑰ 田人支店
- ⑱ 遠野支店
- ⑲ 小名浜支店
- ⑳ 玉川支店
- ㉑ 鹿島支店
- ㉒ 泉支店
- ㉓ 渡辺支店
- ㉔ 常磐支店

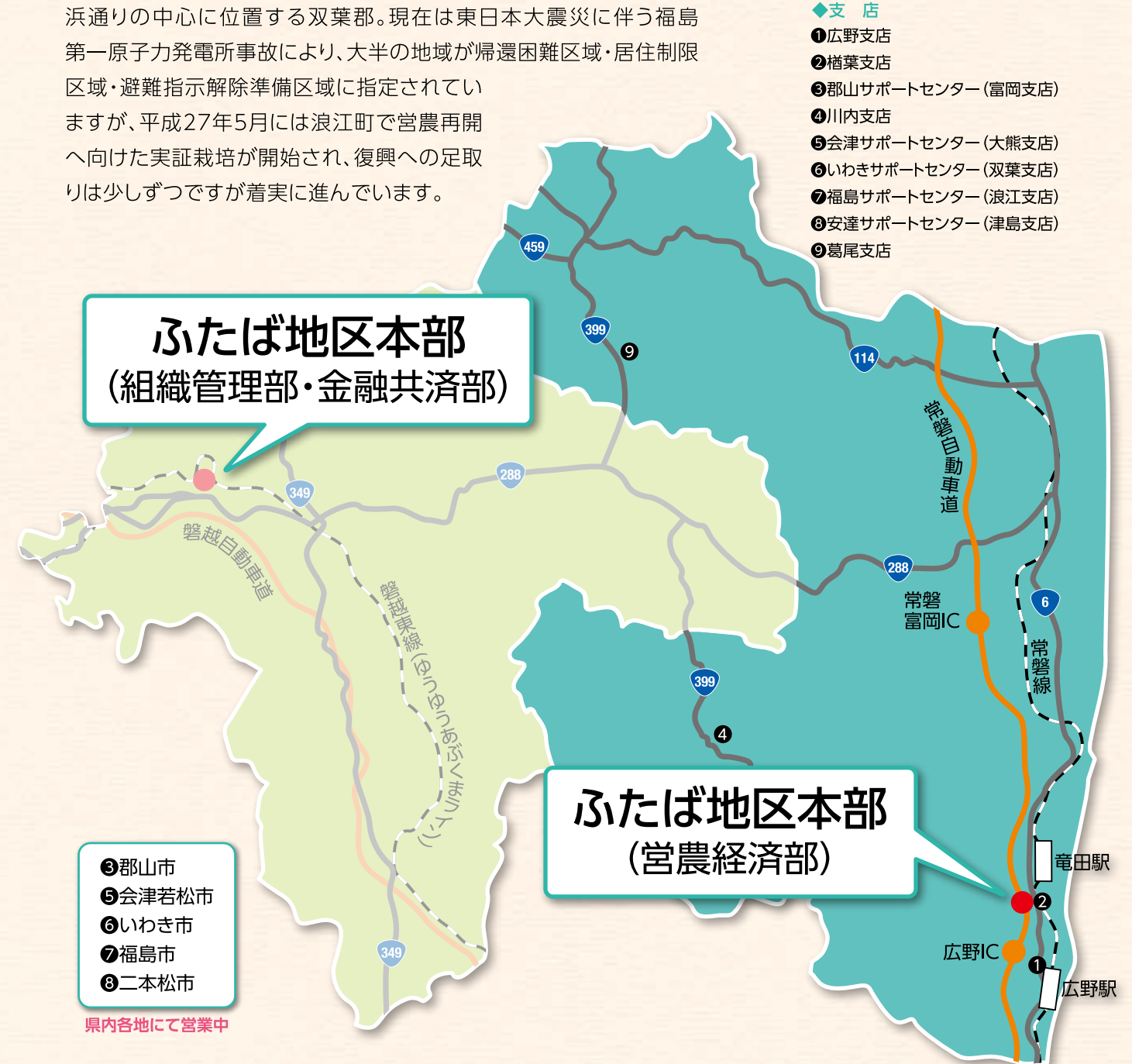
◆施 設

- ㉕ いわき食材センター
- ㉖ いわき福祉センター
- ㉗ 草野デイサービスセンター太陽
- ㉘ いわき三和ふれあい館デイサービスセンター
- ㉙ いわき南福祉センター
- ㉚ デイサービスみなみ
- ㉛ JA歯科診療所のぞみ歯科医院
- ㉜ 第一営農経済センター
- ㉝ 株式会社いわき市燃料サービス
- ㉞ 谷川瀬給油所

- ㉟ ラポール三和
- ㊱ ラポール錦
- ㊲ フレンド会館
- ㊳ 第四営農経済センター
- ㊴ 第五営農経済センター
- ㊵ 新鮮やさい館谷川瀬店
- ㊶ 新鮮やさい館平窪店
- ㊷ いがっぺ
- ㊸ 小名浜グリーン
- ㊹ 泉グリーン
- ㊺ 常磐グリーン
- ㊻ 第六営農経済センター
- ㊼ いわき燃料センター
- ㊽ 小名浜給油所
- ㊾ 泉給油所
- ㊿ 渡辺給油所
- ㊽ 常磐給油所
- ㊾ 川前給油所
- ㊿ 平窪給油所
- ㊽ 大浦給油所
- ㊾ 勿来給油所
- ㊿ 田人給油所
- ㊽ 遠野給油所
- ㊾ いわきガスセンター
- ㊿ 第二営農経済センター
- ㊽ いわき農機センター
- ㊾ 第三営農経済センター
- ㊿ 株式会社いわき市協同サービス
- ㊽ ラポール平
- ㊾ ラポール四倉
- ㊿ ラポール平窪

ふたば地区

浜通りの中心に位置する双葉郡。現在は東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故により、大半の地域が帰還困難区域・居住制限区域・避難指示解除準備区域に指定されていますが、平成27年5月には浪江町で営農再開へ向けた実証栽培が開始され、復興への足取りは少しずつですが着実に進んでいます。



ふたば地区本部
(組織管理部・金融共済部)

- ③ 郡山市
- ⑤ 会津若松市
- ⑥ いわき市
- ⑦ 福島市
- ⑧ 二本松市

県内各地にて営業中

ふたば地区本部
(営農経済部)



ふたば地区本部(組織管理部・金融共済部)
〒963-4321 田村市船引町笹山字立石1
TEL.0247-73-8481

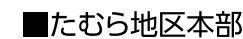


ふたば地区本部(営農経済部)
〒979-0514 双葉郡榎葉町大字下小埦字大木下5-1
TEL.0240-25-3737

◆支 店

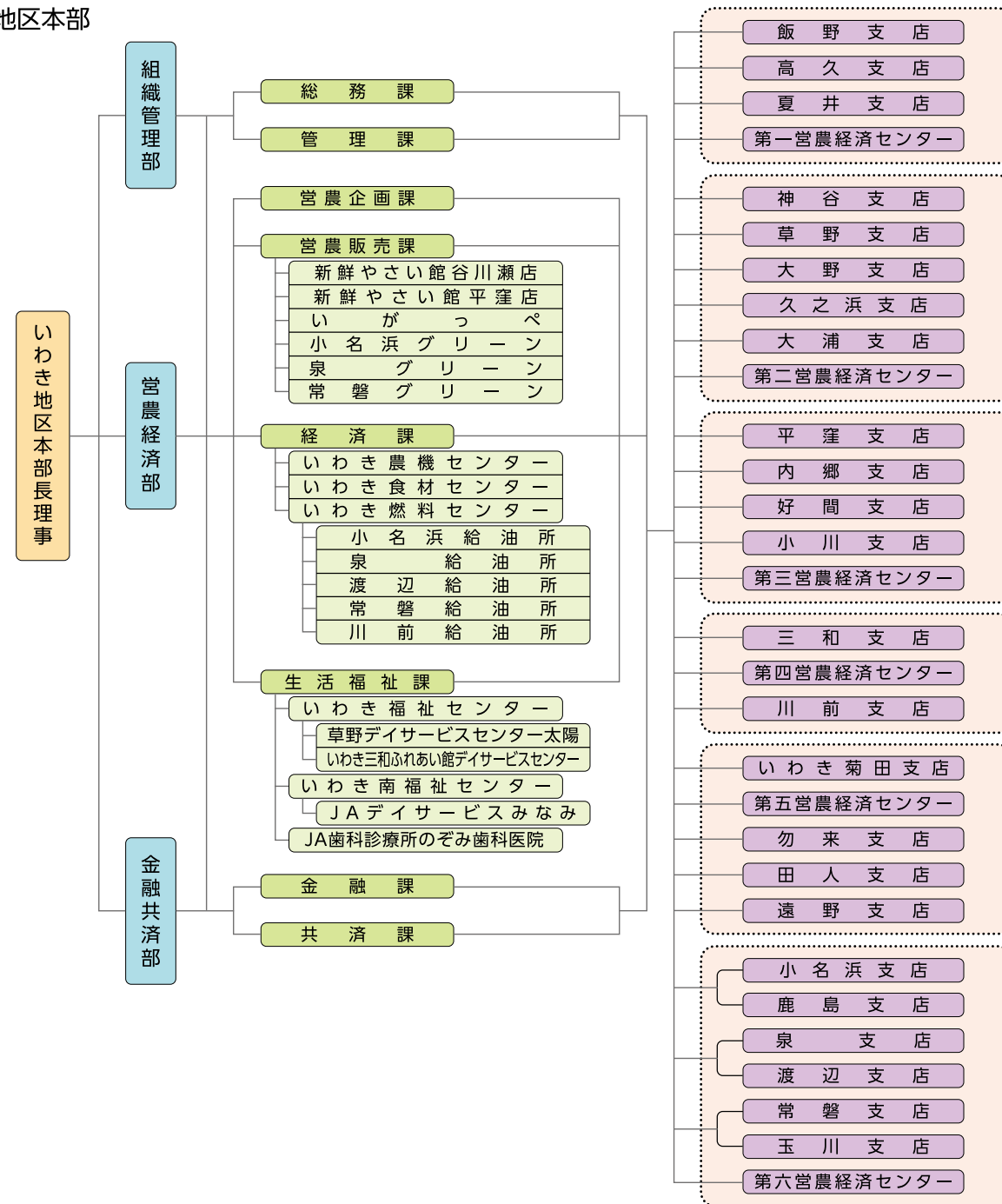
- ① 広野支店
- ② 榎葉支店
- ③ 郡山サポートセンター(富岡支店)
- ④ 川内支店
- ⑤ 会津サポートセンター(大熊支店)
- ⑥ いわきサポートセンター(双葉支店)
- ⑦ 福島サポートセンター(浪江支店)
- ⑧ 安達サポートセンター(津島支店)
- ⑨ 葛尾支店

■本店

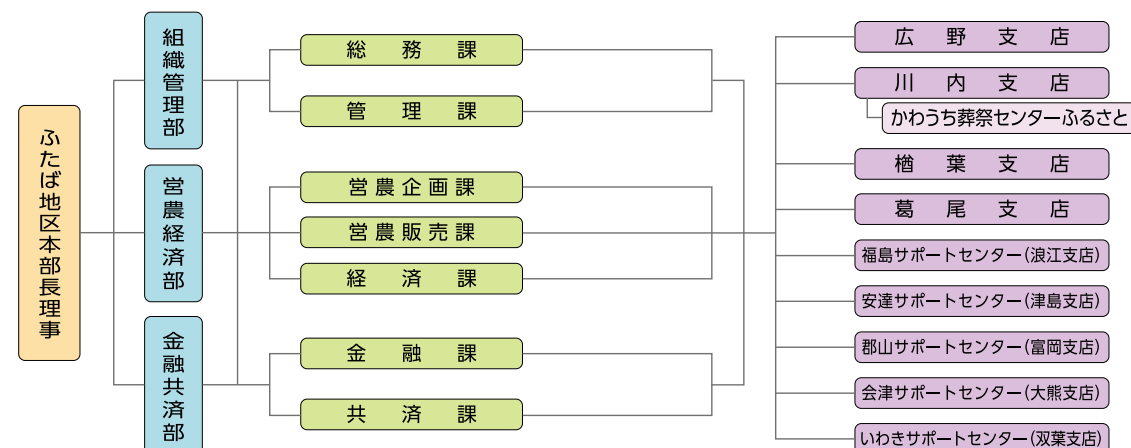


組織機構図

■いわき地区本部



■ふたば地区本部



沿革

年月日		内 容
平成24年	11月16日	第38回JA福島大会にて、「JAグループ福島の新たな組織体制の実現」決議
平成25年	3月11日	JA合併推進協議会設立
平成26年	8月28日	「合併基本構想」策定
平成27年	5月15日	新JA名称案を「福島さくら農業協同組合」に決定
平成27年	8月5日	「合併事業計画」策定
平成27年	9月3日	JAいわき市役員候補者推薦会議にて、新JA役員候補者の承認
平成27年	9月28日	合併予備契約調印式
平成27年	10月28日	臨時総代会にて各JAにおいて合併の正式な承認
平成28年	3月1日	福島さくら農業協同組合発足

JA福島さくらのシンボルマークについて



太陽をイメージした濃いピンク色の円はJA福島さくらの象徴である「さくら」を照らし、福島県の豊かな自然を表す緑と水色はそれを包み込む。自然と共に歩む「JA福島さくら」を意匠化しました。

JA福島さくらの概要

平成28年7月発行

発 行：福島さくら農業協同組合

所 在 地：福島県郡山市朝日二丁目14-7

TEL.024-922-3733

FAX.024-923-8904

<http://www.ja-fsakura.or.jp>

編 集：総務企画部 総務管理課

印 刷：大日本印刷株式会社

